



まちづくりイベントの開催

まちづくりシンポジウム 2021

～ 震災から 10 年、これからのまちづくり ～

主催：茨城県・大洗町・茨城県都市計画協会

まちづくりシンポジウム 2021

茨城県では、県民のまちづくりや都市景観の意識の向上を図るため、茨城県都市計画協会及び地元市町村との共催で、昭和61年度より、まちづくりシンポジウムを開催しています。

今年度は、震災から10年を迎え、町民や観光客の安全を確保するための避難路や津波避難施設等の整備を進めてきた大洗町を会場に、令和4年1月18日（火）にトヨペットスマイルホール大洗でシンポジウムを開催しました。

当日は、茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学領域の山田教授による基調講演「まちづくりと市民参加の接点を考える」と、大洗町でまちづくり活動を行っている方々をパネリストに迎えたパネルディスカッション等により、参加者と共にこれからのまちづくりについて考えました。

また、県内のまちづくりや景観等のモデルとなる団体や取組を表彰する、第4回チャレンジいばらきまちづくり表彰を行いました。今年度は4つの団体が表彰されました。



◆基調講演「まちづくりと市民参加の接点を考える」

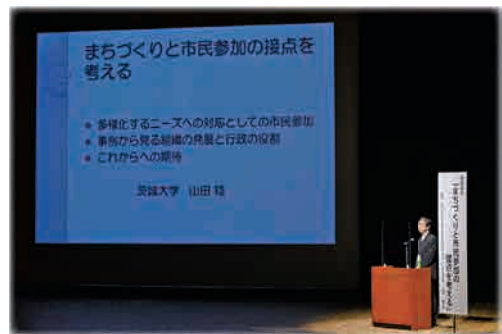
講師 山田 稔 氏

(茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学領域教授)



多様化するニーズに対応したまちづくりを進めていく上で、計画段階での住民参加やまちづくりに対する理念等の合意形成が重要であり、地域団体と行政による取り組み事例等を踏まえたご講演がありました。

また、都市拠点づくりに関する官民連携事業について、自身で調査した行政アンケートの結果も含めてご説明いただきました。



基調講演

◆事例紹介

「大洗町」

大洗町都市建設課より、東日本大震災の被災状況や避難道路、防災施設等の復興事業の紹介がありました。



◆パネルディスカッション

「震災から10年、これからのまちづくり」

コーディネーター

山田 稔

(茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学領域教授)

パネリスト

大里 明 ((一社)大洗観光協会会長)

ZICO 足立 ((一社)ユニバーサルビーチ協会代表・
大洗サーフ・ライフ・セービング・クラブ代表)

梶間 桂子 ((株)カジマ代表取締役)

国井 豊 (大洗町長)



国井町長



大里明氏



ZICO 足立氏



梶間桂子氏



パネルディスカッションでは、「震災から10年、これからのまちづくり」をテーマに、各パネリストから震災の経験や自身の活動内容、今後の取り組み等について発言がありました。

国井町長からは、大洗町の理念でもある、幸せ無限大、不幸ゼロのまちとして、まちの課題や取り組むべき施策等についてお話がありました。

大里氏からは、大洗観光協会による砂浜図書館やガルパン関連の取り組みを通じた人とのつながりについてお話がありました。

ZICO 足立氏からは、ユニバーサルビーチとして、水陸両用の車いすの開発や津波避難誘導訓練の実施、また海洋教育の拠点づくりなどのお話がありました。

梶間氏からは、自身の震災の体験や経営をしているお店と地域の関わり、イベントを通じた大洗町のPRなどのお話がありました。

◆第4回チャレンジいばらきまちづくり表彰

〈チャレンジいばらきまちづくり大賞〉

事業名：道の駅などを活用したまちづくり

受賞団体：境町

〈優秀賞〉

【まちづくり活動部門】

事業名

・大洗町の賑わいづくり

受賞団体

りんとつ応援団

【都市空間部門】

・水戸城大手門・二の丸角櫓・土塀復元整備事業

水戸市

【景観・屋外広告物部門】

・壁画によるまちづくり

取手市壁画によるまちづくり実行委員会





授賞式



記念撮影

(左から都市局長、大洗町長、境町、りんてつ応援団、水戸市、取手市壁画による街づくり実行委員会)

大洗町の賑わいづくり



大洗鹿島線沿線を活動範囲として、大洗町のゆるキャラ「アライッペ」ぬいぐるみの製作等で活動資金を調達しつつ、大洗駅の清掃やまちなかイベントの開催などの活動を通して同線の利用促進を図るとともに沿線住民の交流を創出し、地域活性化に寄与した。

水戸城大手門・二の丸角櫓・土堀復元整備事業



水戸城を象徴する歴史的建造物である大手門、二の丸角櫓、土堀について、一枚瓦城主制度による寄付金の募集など市民と協働で復元整備し、歴史的資源を活かしたまちづくりを行った。

道の駅などを活用したまちづくり



古くから河岸の町として栄えてきた境町は、町の南側の玄関口に位置する「道の駅さかい」をまちなか活性化の拠点としてまちづくりを推進しており、近年では、新国立競技場を設計した隈研吾氏による建築物が多く建設されたことで、町内のみならず町外県外からも多くの来訪者が訪れている。

また、自動運転バスの運行や、まちなかウォークアブル推進事業の一環として、「道の駅さかい」と「河岸の駅さかい」までの区間に誘導案内表示等を施工したことで、まちなかの周遊ルートを確保し、さらなる賑わいを創出した。

壁画によるまちづくり



大学と連携して市内各所に壁画を描くことにより、市民が日常的に芸術に触れることができる環境を創出したほか、落書きや貼り紙が無くなることによる景観改善にも効果を上げた。

